

天津通信

天津日本人学校
日浦 武

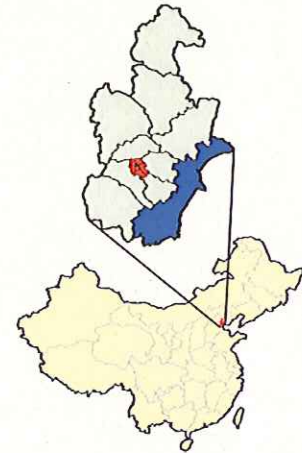
平成26年8月7日

学校のまわりと天津市の様子 ～校外学習・社会科見学から～

今回は、いくつかの学年の校外学習や社会科見学、職員の研修を通して、学校のまわりや天津市の様子について紹介していきます。天津日本人学校では、日本の学校と同じように、各学年が様々な場所に社会科見学に行きます。こうした活動を行うことによって、社会生活の仕組みはもちろんのこと、中国と日本の相違点や同じ点を発見していきます。

天津市は、北京の南東に位置し、東に渤海を、北に燕山を臨みます。市内には西から東へと海河という大きな河が流れています。市区人口は506万人、都市圏人口は720万人です。平日、休日問わず、街には人であふれて活気に満ちています。

さて、まずは、1、2年生です。天津市の中心部にある「天津動物園」です。中国や様々な地域に住む動物が飼育されています。やはり、パンダを見ると歓声があがりますね。2年生のリーダーシップのもと、自分たちで園内を回ります。



出典 Wikimedia Commons, the free media repository



3年生は、「学校のまわり」を調べる学習をしました。学校の周りは、住宅街になっています。高級住宅やマンション、店もずいぶん増えてきました。学校の近くには、バドミントンができる施設があり、バドミントン好きな国民性がうかがえます。バドミントン場は、天津市内でよく見かけられます。



学校周辺の模型が、地区を管理している事務所に置いてあります。(黄色い建物が学校。)



朝早くから、小麦粉で作った生地野菜をつつむ食べ物や果物、野菜などを売っています。

3年生は、社会科の「市のようす」の学習で、「天津タワー」にも出かけます。天津タワーは、略して「天塔」とも呼ばれている電波塔です。天津タワーは高さ415m、重さ4万トン余り、世界唯一の「水上タワー」だそうです。展望室からは、市内が一望でき、市内の様子をつかむことができます。



4年生は、同じ区内の消防署に出かけます。天津市内の建物は、レンガやコンクリート造りの建物がほとんどですが、やはり火事には備えなくてはなりません。出動の訓練や消防車を見学し、隊員の方の心構えをうかがいました。



我々、天津日本人学校の職員も、地域に出かけ研修をします。現地の中学校を訪問しました。1000人規模の大きな学校です。日本人学校の職員の授業を熱心に耳を傾けたり、時には笑ったりと楽しい授業になりました。毎日行っているという、全校体操や行進も披露していただきました。

また、日本と合併して経営している天津市の農場にも研修に行きました。中国でも食の安全に関心が高まり、有機農法で栽培される野菜の需要が増えています。どのように顧客との信頼を築くのか、これからどのような展望を開いていくのかなど、企業努力を学ぶことができました。



ビニールハウスへの入り口は、レンガで作られて、保温効果をもつ工夫がされています。

